

新斎苑計画地周辺の地質構成表

地質時代	地層区分	記号	性状			
新生代	投棄物	ga	建築廃材など			
	盛土	B	ため池の盛土など人工盛土部			
	完新世	地すべり性土塊	Ls	藤原層群のシルト岩および砂岩が風化粘土化		
		現河床堆積物	rd	円礫、砂、シルト		
		崖錐堆積物	dt	角礫、シルト、粘土		
	更新世	段丘堆積物	低位	tel		
			中位	tem		
			高位	teh		
	大阪層群	虚空蔵山礫層	Og	円礫、砂、シルト、粘土		
	新第三紀	藤原層群	虚空蔵累層	風化礫岩	w-cgl	風化により基質が軟質化
				礫岩	cgl	φ0.5~10cmの円礫を伴う砂基質で硬質、しまりが良い
				砂岩	ss	礫まじり砂岩
				シルト岩	slt	均質塊状のシルト岩
中生代	白亜紀	領家変成岩類	片麻岩	Rg	硬質	

地層層序表

地質時代	地層名	土質岩質	地質記号	N値		地層の特徴及び分布			
				範囲	代表N値				
新生代	現世	盛土	砂質土/ 玉石混り 礫質土	B	6~50	17.4	県道奈良・名張線の道路造成盛土。岩井川以北の盛土法面に分布する。今回のボーリングではB-1のみに確認された。土質は玉石混り砂礫主体で、GL-3.35mまでは玉石の少ない細粒分混りの砂質土で構成される。玉石は硬質な片麻岩からなり礫径はφ10~19cmを含む。φ6~13cmのコンクリートガラ、金属片、木片、プラスチック片を混入する。マトリックスは細~粗砂が混在し不均一。玉石間にルーズに堆積している。		
								堆積物層	河川性
	粘性土	rd1	0~3	0.2	岩井川に運搬され堆積した沖積粘性土。岩井川沿いに分布する。今回のボーリングでは出現しない。モンケン自沈するほど軟弱である。				
	第四紀	完新世	堆積物層	崖錐性	砂質土	dt2	1	1.0	調査地山体の谷部を埋積する砂質土。B-6の谷部に分布する。湿地状でN値は低く非常に緩い。
						dt1	3~15	5.9	礫岩、片麻岩起源の崖錐性堆積物。調査地全域にわたって表層土として分布している。斜面下方運搬された岩屑(崖錐性堆積物)だけでなく、原位置に留まったまま表層基岩が土砂に変わったもの(残留堆積物)も便宜的に本層に含める。調査地は全域で基岩深度が浅いためdtの層厚は薄いのが特徴である。崩壊地内でのdt層厚はやや存在し層厚1.5~1.93mがB-4、B-5のボーリングで確認されている。B-7付近の谷部では崩土が厚く5.35mである。土質は粒径の細かい砂質土主体で、シルトを含む。φ2~30mmまでの角礫を混入する。
						tr	16~50	43.9	岩井川に運搬され堆積した段丘性堆積物。B-1や既存B-6などに確認された。土質は砂礫でφ16~19cmの玉石も含む。礫種は片麻岩、珪質岩、チャート主体。角礫主体であるが、円礫も若干含む。マトリックスは川砂状を呈し、洶々の良い細~中砂主体である。N値は高いが礫当たりと考えられ、マトリックスの堆積状態はルーズである。洪積層に分類するが、続成作用があまり進行していない。
	新第三紀	中新世	虚空蔵累層	砂岩礫岩相	強風化	Fsc-W2	10~46	23.6	礫岩の表層に分布する強風化帯。礫岩が強く風化を受けており、固結度をかなり失っている。砂質コアが主体で部分的に風化の弱い礫状コアを残している。N値は50以下(10~46)である。 露頭およびB-7において強風化シルト岩を層状に挟むことが確認された。強風化シルト岩は、風化劣化のため固結粘土状を呈す。層の連続性は悪い。
					風化	Fsc-W1	83~300	133.5	中程度に風化が進行している。マトリックスの固結度が弱く、ボーリングコアはハンマー打撃により容易に崩すことができる。礫岩の礫種は砂岩、頁岩、珪質岩であり硬質なものが多い。礫径はφ2~50mmが主体となる。礫混入率はバラツキがあり40~80%の範囲にある。 露頭およびB-8において風化シルト岩を層状に挟むことが確認された。風化シルト岩は、風化劣化によって固結粘土状を呈す。層の連続性は悪い。
					弱風化~未風化	Fsc-f	68~300	223.0	風化の程度が軽度なもの。コアの形状は短柱状~長柱状を呈す。マトリックスの固結度はやや高く、ボーリングコアはハンマー打撃により濁音~軽い金属音~金属音を発す。礫岩の礫種は砂岩、頁岩、珪質岩であり硬質なものが多い。礫径はφ2~40mmが主体となる。礫混入率はバラツキがあり30~90%の範囲にある。 露頭およびB-7、B-8において砂岩、シルト岩を層状に挟むことが確認された。砂岩とシルト岩は漸移的な関係にある。層の連続性は悪い。
	中生代	白亜紀	変成領家岩類	片麻岩	Rg	9~300	169.1	領家変成岩類の片麻岩は調査地周辺において広域に分布している。調査地には岩井川沿いで露頭が確認されるが、岩井川以南には虚空蔵累層の砂岩礫岩相の下位に分布し、ボーリングでは確認されていない。黒雲母の簾状配列が発達するもの、黒雲母は微量で結晶発達し花崗岩に似た岩相を呈するものがある。 露頭観察では塊状で硬質な状態で分布している。ボーリングコアではハンマー打撃で濁音~軽い金属音~金属音を発す。コアの形状は短柱状~長柱状を呈す。	